



## 2020年にはじまる教育改革への準備

校長 萩野 幹夫

強い日差しと暑さから解放された季節となりました。半面、湿度が高くなり、ウイルスや細菌による病気に注意が必要になります。どうぞ、ご家族の皆様にはご健康に十分ご留意ください。

さて、私たちの指導の指針は文科省が通達する『学習指導要領』に準拠しています。10年に一回の改定が行われ、この二年間は、2020年度から小学校での完全実施に向けた〈新指導要領〉への移行期間となり、本校でも今年度から少しずつ対応していきます。

今回の改訂の趣旨は、情報化やグローバル化など急速な社会的変化が進展する予測困難な時代の中で子どもたち一人一人が未来の創り手となるための資質・能力の育成、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善などです。

具体的なカリキュラム変更は「小学校5・6年生は、英語活動ではなく教科として英語を実施。小3・4年生は、外国語活動を導入する」「道徳を教科とする」「プログラミング教育を導入する」の三つです。

本校の外国語については、海外にある学校の特殊性からかなり前から、幼稚部も含めて全学年が英語の授業を多く取り入れています。また、小・中学部ともミャンマー語も取り入れていますので、外国語対応は完了しています。今後、インター校との交流において、積極的に活用する機会を設けたいと思います。

道徳は、人権を尊重する心・他人を思いやる心・自立心・社会貢献の精神等を、他者・社会・自然環境とのかかわりの中で自己の望ましい生き方とはどうあるべきかを考えさせる取り組みです。

今回、道徳が教科化されたきっかけの一つにいじめ問題があり、子どもたちに生命を尊重する感覚や倫理観が育っていないのではないかという議論が背景にあります。道徳や倫理観は、多くの場合「正解」が一つに決まらない場面が多いです。

今後の『道徳』は、「教える」よりも複数の選択肢の間で気持ちが「揺れる」体験を通して、自分はどう生きたいか考えさせることを重視します。人間の生き方に「正解」はありませんし、他の教科のように数値的な評価はつけません。保護者の方は教科書や授業を見て「何を教えたいのかよくわからない」とお感じになるかもしれません。多文化共生社会を生きるためには、様々な価値観に揺さぶられる体験が教室の中で行われていることをご理解いただき、日々の出来事においても保護者ご自身ならどうするか「揺れる」「考える」体験をお子さまと共に行っていただければ幸いです。

最後に、プログラミング教育についてです。一昨年、当地で教室を開いている企業にお願いし、電子レゴキット使った授業を中学部の子どもたちが体験しました。子どもたちは興味をもって取り組みました。今後継続的に指導していただける、現地のIT関連企業との連携を探っているところですが、もし、お知り合いの方がいましたらご連絡いただきたいと思っております。

このように、ヤンゴン日本人学校ならではの教育とともに、新しい教育への準備を進めてまいります。



## 主な学校行事予定

6/23 (土) PTA スポーツ大会

7/6 (金) セタ集会

6/27 (水)～29 (金) 中学部宿泊体験学習

7/9 (月)～10 (火) 中学部期末テスト



## 中学部宿泊体験学習について

中学部1年担任 釘本 聡子

今年度の中学部の宿泊体験学習は、6月27日から29日にかけて2泊3日でマンガレー方面に行きまして参ります。初日は、アマラプラの「マハーガンダーヨン僧院」「ウーベイン橋」「マハムニバゴダ」「マンガレー旧王宮」「シュエナンドー僧院」「クドードォバゴダ」「マンガレーヒル」へ。2日目はミングォンの「ミングォンバヤー」「ミングォン鐘」「シンビューメェバゴダ」を回り、マンガレーの歴史と文化を学んでいきます。3日目は、ザガインのワッチェ慈善病院を訪問し、ジャパンハートの活動の体験学習をしていきます。

宿泊体験学習の目的は、その場に行き見聞を広めることだけでなく、行くまでの過程も大切にしています。自主的・主体的な活動を通して、1人ひとりが自分の役割を持ち、互いに協力しながら支え合う人間関係を育てること、ミャンマーで活躍されている日本人の姿を通して、自分の生き方や将来の夢について考える機会にしたいと思っています。

事前学習の発表会を終え、子どもたちは宿泊体験学習への期待でいっぱいです。もちろん、ホテルでのプール利用やレクリエーション、自由時間も子どもたちの大きな楽しみです。

ミャンマーだから出来ること、ミャンマーでしか体験出来ないことを存分に楽しみ、寝食を共にしながらたくさん思い出を作って、笑顔で帰ってきたいと思っています。



## ヤンゴン外国語大学インターン生との交流

小学部6年担任 成澤 千晶

6月21日から25日までの5日間、小学部5・6年生の学級にヤンゴン外国語大学日本語学科の学生2名がインターンとして来ました。この取組みの目的は二つあります。①子ども達がインターン生との交流を通してミャンマーの文化に触れ、国際理解をより深めること。②将来、ミャンマーを担う学生が日本の学校教育について学ぶ機会とすること。

研修の間、インターン生は子どもたちと学習や掃除、休み時間など学校生活を共にしました。子どもたちは総合的な学習の時間に、ミャンマーと日本の関わりを考える学習を行っています。そこで二人に、ミャンマーの学校生活や日本について興味を持っていることをインタビューしました。二人とも日本語が堪能で、子どもたちの質問に丁寧に答えてくれました。そのお話の中で、「日本の教育は、子どもたちが考えることが多くてよい。先生が命令しているのではなく、子どもたちがそれぞれ考えて行動できるようにしているのに驚いた。」と、子どもたちに話をしてくれました。普段当たり前だと思っている日本のことや、今まで知らなかったミャンマーについて知ることが出来たことは子どもたちにとってとても貴重な経験となり、また、お互いの文化を知ることができ、新しい発見がたくさんあった素晴らしい交流になりました。



## 新任のあいさつ プイン プイン ピョー先生

小学部3年生以上のミャンマー語の初級を担当しています。子ども達に教えることが大好きで、授業では児童・生徒とたくさん会話をするようにしながら楽しく勉強しています。皆さんももっと仲良くなりたいたいですし、ミャンマー語にもさらに興味を持ってもらえるように一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。